



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一〇一号〜

雨水うすい

二月一九日



## エコ参宮その2 ヒサカキ

木へんに神と書いて、榊みかき。漢字ではなく、国字となっているサカキは、紙垂しでを付け、「玉串たまぐし」として神さまにお供えするなど、神事に欠かせない植物として日本人に尊ばれてきました。つやつやとした緑の葉は、神さまに供えるのにふさわしい、瑞々しきです。また、神さまと人の世界の境目に生えることから、その名があるともいわれています。

エコ参宮では、別宮の月読宮つきよみのみやの生垣なまきりのところで、岡與よ一先生が興味深い話をされました。

「これは、サカキではなく、ヒサカキといいます」と緑の照り葉をつけた植物を指差しました。一見すると、サカキとしか思えないのですが、ビシャゴとも呼ばれるツバキ科の常緑小高木です。

「花屋さんでサカキを頼むと、高い方か、安い方かと聞かれますが、安い方がこのヒサカキなんです。サカキにあらずということ、非サカキということになるのでしょうか。特に関西より北では、サカキが手に入りにくいので、代用品としてこれが神前に供えられます」と、岡さんは日常の中でのエピソードを交えて話されました。

ヒサカキの由来は、非サカキだけでなく、小振りであることから姫サカキが転じたともいわれています。大きな違いは、葉の縁にギザギザがあることで、庭木や生垣によく使われているそうです。サカキとヒサカキ。今回初めて知りました。意識すると、案外、身近にもありそうです。

ちなみに、伊勢神宮で使用されているのはサカキです。伊勢市郊外、佐八さやち小学校近くの宮川のほとりにある神宮苗圃で育てられています。

文 千種清美

